

○11番（阿多己清君）

フッ化物洗口事業について質問します。この事業は、虫歯や歯周病になりにくい強い歯を作るため、特に虫歯リスクが高い園児や小学校低学年期の児童に、フッ化物洗口を行っているものであります。昨年の3月議会で私も一般質問し、本市での取組も大いに進めるべきと申し上げ、できるだけ早い時期に全校実施の取組をと求めました。その際に、洗口事業を既に実施している保育園等は29園、小学校では5校、そして、平成29年度においては、小学校11校に対し、説明会等を実施していくとの答弁がありました。そこで1点目、昨年度までの実施状況と今年度における実施予定校数をお示してください。また、実施には至っていないと思いますので、現在の進捗状況もお聞かせください。次に、2点目、様々な課題を挙げ、学校現場における洗口事業の実施を見送るべきとの意見も一部にあるようです。でも、しっかりと国のフッ化物洗口ガイドラインに沿ったものであれば、問題はないと私は思います。説明会を真摯に行った上で、賛同が得られた児童だけ行うことになります。何が問題、何か課題があるのでしょうか。教育委員会の見解をお聞かせください。また、実施に当たっては、児童の安全は確保されていると思いますが、それらの状況についてもお示してください。

○教育部長（中馬吉和君）

フッ化物洗口事業についての1点目にお答えします。本市の小学校におけるフッ化物洗口事業につきましては、平成27年度に2校、平成28年度に3校、平成29年度に15校の計20校で事業を実施しております。また、本年度につきましては、7校において教職員及び保護者に説明会の開催を予定しており、平成31年度までに、全ての小学校で実施予定です。次に、2点目にお答えします。フッ化物洗口の安全性や有効性については十分に検証されているところですが、一部不安を抱いている方もいらっしゃることから、説明会において、教職員や保護者に対して正しい知識や情報をお伝えし、理解を得られるように努めているところでございます。また、既に実施している学校では安全に行われており、事故の報告は一件もございません。今後も、未来を担う子供たちの豊かな生活に深く関わる歯と口の健康づくりについて、フッ化物洗口を含めた歯科衛生指導を、始良地区歯科医師会及び始良地区薬剤師会、関係機関と連携しながら、充実させてまいりたいと考えております。

○11番（阿多己清君）

いろいろ今年度も計画もされていきますので、安心はしているんですけども、ただ、今回、陳情も出ました。いろいろ課題があるよという見解を述べておられます。課題という考えられるものが何なのか、そこらがあったら教育委員会のほうで御答弁ください。

○学校教育課長（河瀬雅之君）

ただいま実施しております学校におきましては、特に大きな混乱もなく実施ができておりますけれども、一番の課題はフッ化物洗口の安全性について不安を抱いている方、あるいは、有効性について疑問を持っている方が一部いらっしゃることで、そういうふう感じております。

○11番（阿多己清君）

今、課題といいましょうか。幾つか言われましたけれども、そこに対しての対応というのは、どうされていますか。

○学校教育課長（河瀬雅之君）

十分な説明が一番大切であると考えております。始良地区歯科医師会、同薬剤師会、始良保健所、市保健福祉部の御協力も得ながら、教職員及び保護者説明会において、正しい知識や情報をお伝えしていく、そういったことに努めているところでございます。また、管理職研修会、養護教諭等研修会におきましても、歯科医師、あるいは保健所職員をお招きして、フッ化物洗口について、専門的な立場から講話をしていただいているところでございます。

○11番（阿多己清君）

保護者の同意が得られず、実施に至っていない児童もいるかと思いますが、ここらは何%程度いらっしゃるのか。

○学校教育課長（河瀬雅之君）

平成 29 年度末現在で 20 校実施しております。その中で対象となる児童は 2,784 人、そのうち 2,482 名が実施しておりますので、保護者の同意が得られないなどの理由で実施に至っていない児童は、その割合が 10.8%でございます。

○11番（阿多己清君）

園児や低年齢児童の乳歯から永久歯に生え変わる時期に洗口するというのが、歯を強くするよということで、以前、歯科医師会の方々からお話も頂いたところであります。本市での効果というのは、まだ何年かしかたっておりませんので、まだ教育委員会のほうでも把握できにくい部分かと思えますけれども、今後、大いに実施してほしいなという思いなんですけれども、教育長から前回、思いを聴きましたけれども、改めて今日お聴かせいただいでよろしいですか。

○教育長（高田肥文君）

フッ化物洗口については、先ほどもありましたとおり、たくさんの方々の御協力で実施をさせていただいております。私が思っていますのは、まず、先進地の実績であります。昭和 45 年に開始しました新潟県、50 年近くになっていると思うんですけども、1 人当たりの平均虫歯本数が全国一少ない状況を 10 年以上続けておられて、事故もないということでもあります。また、鹿児島県と同様に虫歯本数の多かった佐賀県も、平成 14 年から全県的にフッ化物洗口に取り組み始めた結果、現在では新潟県と肩を並べるほどの効果を上げています、ということもあります。また、同じく虫歯本数の多かった秋田県も平成 19 年から全県的にフッ化物洗口に取り組み始めまして、その結果が、全国平均より良好な結果にもなっているというようなことです。もう一つは、今後は歯と口の健康について、医学的にいろいろなことが分かってまいりました。例えば、歯を失うとかみ合わせのバランスが崩れて、体全体に悪影響を及ぼしてきます。歯周病が糖尿病を引き起こす原因になっているということも分かってまいりました。そして、スポーツに必要な瞬発力や持久力、平衡感覚を養うのに歯の健康と言うんですか、歯が非常に重要な役割を果たすと。かむ刺激が脳の血流と神経伝達を増やし、知能の発達や脳の活性化に大きく影響していること。さらにかむ能力は、がんや認知症、肥満の予防にも有効であると。そして、子供の頃から健康に関心を持ち、自らの歯を守る姿勢を育成する、そういうことも非常に効果があるということでもあります。そのようなことから、私どもは、フッ化物洗口事業は国のガイドラインにのっとって、歯科医師会、いろいろな方々の協力を得ながら、有効性、安全性について丁寧な説明を行った上で理解を求めて、合意された方だけに実施をしているわけです。ですから、このことは、今、大きな問題になってい

る貧困対策にもかなっているのではないかというふうに思っております。子供たちの未来のために、将来の健康を守るためにフッ化物洗口を推進しているところでもありますので、そのことを今後とも十分説明を加えながら、全ての学校で実施できるよう進めてまいりたいと思っております。

=====

以下は私のホームページに掲載しております霧島市の『学校フッ化物洗口Q&A』への反論に対する、抗議です。反論は全国の有識者から頂戴したものです。抗議の趣意はすべてが霧島市教育委員会作成、始良地区歯科医師会監修と受け取れるから修正して欲しいとの内容でした。

明快に『学校フッ化物洗口Q&A』は霧島市が作成したものであり、その内容に疑義があり、対比させたものを公開していると修正しました。よくご覧になっていることに歓迎しました。これからも問題点を指摘してまいります。

○11番（阿多己清君）

ある方のホームページになりますけれども、学校フッ化物洗口Q&Aが掲載されております。しかも、霧島市教育委員会作成と。地区歯科医師会、始良保健所、健康増進課などの監修となっておりますけれども、このQ&Aなんですけれども、本当に市が作成されたものですか。

○学校教育課長（河瀬雅之君）

教育委員会のほうではフッ化物洗口に係るQ&A集を作成し、各学校に配付しておりますけれども、その一問一答に反対意見を附したものが、ネット上に掲載されているようです。そのコメント等に、教育委員会は全く関与しておりません。

○11番（阿多己清君）

先ほどいろいろ教育長からいい点等を紹介を頂きましたけれども、ほとんどのものが異論、反論で打ち消されております。こういうものが堂々とネット上に掲載されるということ、本当にびっくりする、そういう思いであります。これに対して、教育委員会としては何か抗議等はされておりますか。

○教育部長（中馬吉和君）

今、課長が申しましたように、教育委員会と保健福祉部の名前が使われたものがネット上に出回っているということで、その名称の削除について、現在、関係機関のほうと調整をしながら、検討しているところでございます。

○11番（阿多己清君）

しっかりと抗議をしてほしいと思います。保護者に賛同が得られない児童の実施は、先ほど教育長からありましたけれども、やむを得ないと思っております。そこらの部分は分かりますけれども、しっかりとルールにのって、取組を今後も求めて、私の質問を終わりたいと思います。